

編集後記

■編集委員 (50 音順)

出 月 康 夫	北 島 政 樹	北 野 正 剛	小 西 文 雄
白 日 高 歩	堤 治	万 代 恭 嗣	東 原 英 二

本号の特集は、内視鏡外科の新たな展開として登場した内視鏡下甲状腺・副甲状腺手術で、空間のないところに術野を作製し、内視鏡観察下に細かな操作を行う手術に関するものである。内視鏡外科が腹腔鏡下胆嚢摘出術で開始された当初、炭酸ガスによる皮下気腫は合併症として恐れられたものであるが、今では意図的に作製されるまでになった。本領域の発展と普及には目を見張るものがある。

内視鏡外科の歴史のなかで忘れてはならないものの1つとして、東西ドイツ統一前の1988年にベルリンで行われた、記念すべき第1回世界内視鏡外科学会がある。ケルンのトロイデル教授の主催で、世界各国から内視鏡外科医が集った。とは言っても、その当時はフレキシブル内視鏡で、内視鏡診断や内視鏡治療が主であった演題数も300ほどであったと記憶している。そのなかで、わずかにセム教授が腹腔鏡下に“のぞき”ながら行う結紮手技や虫垂切除などを報告した。筆者もその講演に居合わせたか、なにやら難しそうな手技で、とても自らこれらに携わることになろうとは夢にだに思わなかった。ところがである。CCDの改良とともにモニター下の手術になったとたん、爆発的な発展となり、わが国でも2001年末までに約38万例に施行され、多くの手技がすでに保険収載となっているのは周知のごとくである。ところで、世界内視鏡外科学会については、わが国では出月康夫理事長が1994年に京都で主催されて10年を経るが、そろそろもう一度、わが国での開催はどうであろうかとの提案が理事会でなされた。そして、先日の米国内視鏡外科学会のおりに開かれた委員会に万代恭嗣国際委員長とともに出席して、わが国として、2008年の第11回大会に立候補を表明した。開催候補地としては、国際的な知名度や利便性から横浜を推薦させていただいた。アメリカ、中国からも開催希望があり、議論のあとにどのようになるかは余談を許さないが、いずれにしても会員の皆様からご賛同いただいて、近い将来、日本に誘致したいと考えている。

(北野正剛)

日本内視鏡外科学会雑誌 (第8巻 第3号) 2003年6月15日発行・隔月刊

Journal of Japan Society for Endoscopic Surgery (Tokyo)

1 部定価: 会員には毎号送付されます。その他については、1 部定価 (本体 2,700 円 + 税) となります。

2003 年 年ぎめ予約購読料: 16,500 円 (配送料: 医学書院負担)

編集・発行: 日本内視鏡外科学会 (代表: 出月康夫)

〒113-8622 東京都文京区本駒込 5-16-9 (財) 日本学会事務センター内

(☎ 03-5814-5801 Fax 03-5814-5820 担当: 佐々木) <http://www.jses.org>

Published by Japan Society for Endoscopic Surgery, 5-16-9 Honkomagome Bunkyo-ku, Tokyo, 113-8622, Japan

©2003, Printed in Japan

発 売: 株医学書院 (代表: 金原 優) (本誌担当: 田村, 中田) <http://www.igaku-shoin.co.jp/>

<http://www.igaku-shoin.co.jp/mag/jses/>

〒113-8719 東京都文京区本郷 5-24-3 (振替口座 00170-9-96693 番)

本誌編集室直通 ☎ 03-3817-5707 (Fax 03-3815-7802 E-mail: jses@igaku-shoin.co.jp)

販売部直通 ☎ 03-3817-5659・5660 (Fax 03-3815-7804)

印刷所 横山印刷(株) ☎ 03-3622-6161 (Fax 03-3625-1591)

広告申込所 (株) 文栄社 ☎ 03-3814-8541 (Fax 03-3816-0415)

本誌の内容を無断で複写・複製・転載すると、著作権・出版権の侵害となることがありますのでご注意ください。